

# リサイクル・リユースにつながる回収のあり方を探る

経済経営学類 准教授 博士（経済学）

沼田 大輔

NUMATA Daisuke

廃棄物活用の  
推進役



研究室 URL <https://www.ad.ipc.fukushima-u.ac.jp/~e023/>

【専門分野】 環境経済学、特に、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の経済学

【プロフィール】 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程修了（博士（経済学））。廃棄物・資源の回収の仕組みに関心を持ち、この関連の研究で、2015年10月にイタリアで開催された国際学会「第15回 国際廃棄物管理・埋立 シンポジウム」で、「廃棄物管理政策についてのベスト論文賞」、2016年6月に「平成28年度 福島大学 学長学術研究表彰」を受賞した。

リサイクル・リユースにつながる回収を皆さんに行って頂く方策について研究しています。特に注力し続けているのはデポジット制度の研究です。デポジット制度とは、商品を買う時に製品の価格に加え、一定の額を余分に支払い、消費後、容器等を所定の場所に返すと、買う時に余分に払った額を返してもらえる仕組みです。世界では国単位でこの制度を導入しているところもあり、その実態をフィールドワークなどで調査しています。学内では、ゼミ生とともに、大学生協で販売されている弁当の容器の回収・リサイクルに取り組んでいます。学外では、これまでたとえば、「福島オーガニックフェスタ」の模擬店の食事が出たトレーの回収・リサイクル、復興支援への寄付を絡めた日

本酒の瓶の回収・リユースなどを行いました。

今後は、スーパーマーケットなどの店頭で見られる食品トレー・ペットボトル・古紙などの回収のあり方も考えていきたいと思っています。このような店頭回収は、現在の廃棄物行政において位置づけが明確とはいえないと思います。こうした使用済み製品・廃棄物の回収・処理について、事業者・行政・住民の、より効率的な協力のあり方を探り、環境負荷の低減につなげたいと考えています。また、所有者に利用意思がないけれども保管され続けている退職物の回収、海・湖・川の汚染を防ぐためのプラスチックの回収、山林からの林地残材や間伐材の回収といった、様々な回収に関心を寄せています。



### 研究概要

「身近な環境のことをみんなで考え行動する」をテーマとして、「使用済み製品を適切に回収するための社会的な仕組みづくり」に関心を寄せています。使用済み製品・廃棄物の回収／処理について、事業者と行政の、より効率的な協力のあり方も探っていきたいと考えています。また、身近な環境の例として、福島大学生協で使われている南会津の間伐材を利用した割り箸を出発点に、森林保全・中山間地域の活性化などにも関心を広げています。さらに、日本や世界の廃棄物管理を学生と



英語で議論する授業を行ったり、海外でのインターンシップのコーディネートにも関わっています。

こんなこと  
できます!

## 廃棄物・使用済み製品の効果的な回収方法を考えます

想定するパートナー

行政・企業・非営利組織・コンサルタント

具体的な連携、事業化のイメージ

廃棄物管理に関する調査研究・実践

### これまでの取組事例

使用済み弁当容器の回収(福島大学生協同組合と沼田ゼミの共同の取組みとして。2009年～現在)  
福島県における日本酒の中びん再利用(福島県容器リユース推進協議会 座長として。2012年～現在)  
ヨーロッパ・北米における使用済み容器・製品の回収方法の実態調査

### 関連情報

『デポジット制度の環境経済学—循環型社会の実現に向けて—』勁草書房、2014年(単著)  
Policy mix in deposit-refund systems-From schemes in Finland and Norway”  
Waste Management 52,pp.1-2,2016年(単著)

## 私たちの研究室自慢!

私たちは、弁当容器・廃棄物・割り箸などの身近な物事から、環境問題の解決策を、経済学の視点で研究しています。"Think Globally, Act Locally"で、大学を起点に、世の中の環境問題を少しでも解決すべく、活動しています。(3年生・馬目 優希)



地域  
産業振興

人材育成

環境

